



響け フォルクローレ 天高く。



コスキン・エン・ハポンの父
「長沼康光さん」に捧ぐ音色

国内最大級の中南米音楽祭「コスキン・エン・ハポン」が、今年も10月8日から10日まで3日間 にわたり開催されました。

このコスキン・エン・ハポンは、昭和50年、大の音楽好きだった川俣町の長沼康光さんによって生み出され、今年で第42回目を迎えました。

初開催から半世紀となる50周年に向け、着実に歩みを進めてきたコスキン・エン・ハポンでしたが、今年はとても悲しい出来事がありました。

コスキン・エン・ハポンの生みの親である長沼さんが、8月17日にお亡くなりになりました。

第42回コスキン・エン・ハポンは、初めて長沼さん不在での開会となり、2日目には長沼さんの追悼セレモニーが行われるなど、フォルクローレを愛する全ての人が長沼さんとの別れを惜しまました。

しかし、きつと長沼さんは、雨が降る中でも子どもから大人まで元気いっばいに行進したコスキンパレード、そして、全国各地から集結した180組の織細で力強い演奏を、空から見守ってくれていたはず。

そして、コスキン・エン・ハポンがこれからも末永く愛され続けることを心から願っていることでしょう。





日本代表「小川紀美代と蛇腹隊」

今年もコスキン・エン・ハボン2日目の10月9日、来年1月にアルゼンチンのコスキン市で開催される第57回コスキンフェスティバルに出場する日本代表の審査が行われました。今年は、全国の強者5組が日本代表の座を狙い、技を競い合いました。

例年以上に高いレベルでの競合に、会場は熱狂し、審査員を悩ませる審査会となりました。そんな中、今年は、バンドネオンだけで力強いアンサンブルを奏でた「小川紀美代と蛇腹隊」(東京都)が日本代表の座をつかみました。高いレベルでそれぞれの個性を感じることができる日本代表審査会、来年はどんな戦いが繰り広げられるのでしょうか…。



Caption

1. アミーゴ・デ・川俣の子どもたち、3日間演奏にお手伝いと頑張りました 2. 長沼さんと親交の深かった東出五国さん、若林美津子さん、飯田利夫さんらが感謝の言葉を伝えた 3. 雨の中でもがんばったコスキンパレード 4. 24年連続出場 TAKUYA&YOSHIO がお馴染みのパフォーマンスで会場を盛り上げる 5-9. 日本代表審査会 5. 日本代表に選ばれた「小川紀美代と蛇腹隊」 6. 「pechan ギター弾き語り」 7. 兄弟デュオ「清水悠 & 清水陽」 8. バイオリンが繊細に響く「殿と瓶とオジョウ」 9. ワンマンバンドで注目を浴びた「Rio de 半仁門」

